

巻頭言

四半世紀はあっという間のこと

第25回 体液・代謝管理研究会は、2010年1月30日土曜日に東京女子医科大学河田町キャンパスの弥生記念講堂において開催されました。当日登録者数74名でした。四半世紀に渡り、麻酔、集中治療、救急領域を中心とした臨床医と臨床検査技師の皆様の情報交換の場としての役割を担ってきました当研究会も、この参加人数から類推しますと息切れと今後の方向性を模索する段階に来ていることは間違いありません。

会場費を無料にして、臨床研修医にとって最初の関門である輸液管理についての座学そして耳学問の機会として活用してもらおうという趣旨も盛り込んだのですが、現実に研修医が来たのは、臨床研修センターにポスターを何枚も貼ったのにもかかわらず、その時に麻酔科を廻っていた数名にとどまりました。

来年は、千葉大学医学研究院救急集中治療医学の織田 成人 教授が会長を務めてくださいます。そして早速に重症敗血症患者・敗血症性ショックの循環管理について各施設の工夫を競い合うシンポジウムを企画されるという新機軸を打ち出されています。他にも重症患者の輸液管理について、膠質液 vs. 晶質液について病態別に見た有益性についてこれも一般演題を募集しての企画をされています。

今後は、このように麻酔科集中治療領域の切り口から、間口をどんどん広げていただき、内科関係の臨床医の先生方も取り込み、また研修医部門を作り、それは研修医の皆さんに企画してもらおうセミナーにしても良いのかなと考えてみました。それだったら、お前が第25回で企画すればよかったのと言われそうですが、終わってみて反省をして考えつくところが何とも申し訳ないことでした。

第25回体液・代謝管理研究会

会長 尾崎 眞（東京女子医科大学医学部麻酔科学講座）